

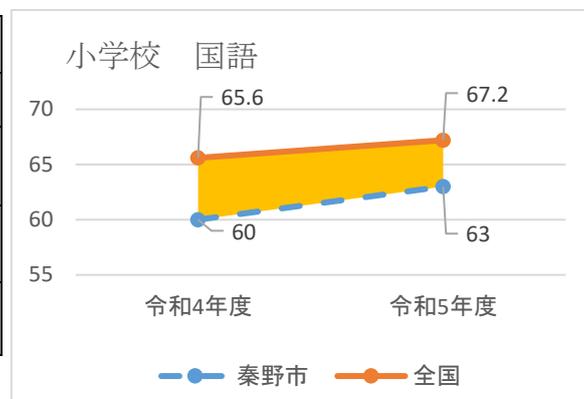
令和5年度全国学力・学習状況調査結果の分析について

秦野市教育委員会

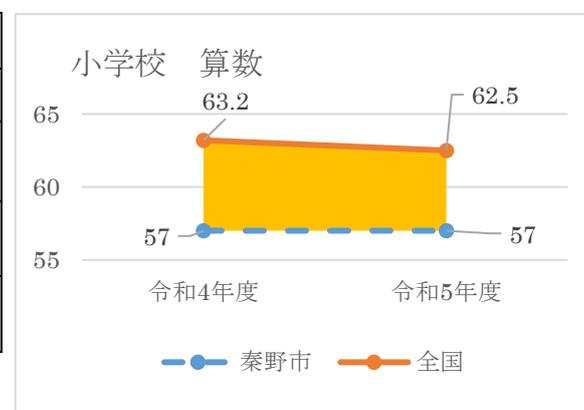
1 小学校の調査結果の概要 (単位：%)

(1) 各教科の正答率等について

小学校	国語	
	令和4年	令和5年
秦野市	60	63
神奈川県	65	66
全国	65.6	67.2



小学校	算数	
	令和4年	令和5年
秦野市	57	57
神奈川県	64	63
全国	63.2	62.5



※県及び市の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供されています。

(2) 結果の分析について

ア 国語については、知識・技能の正答率が高い傾向にあります。一方、資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを記述するような設問の無回答率が高く、他の問題に比べ正答率が低い傾向となりました。資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして考えを記述する活動を重点的に行うことで、改善していくと見えています。

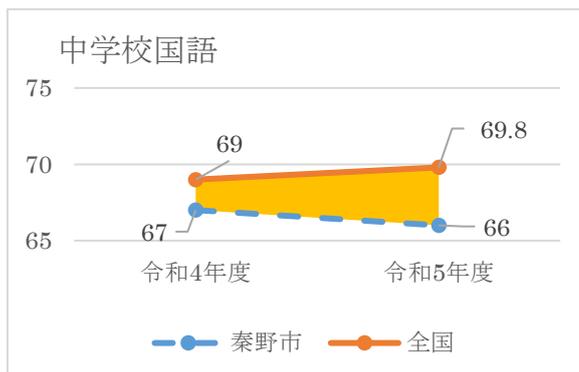
イ 算数については、記述式の設問の正答率が低い傾向にあり、無回答率が他の問題よりもやや高い傾向があります。公式の意味や性質について正確に理解することで正答率の改善が期待されます。

ウ 国語、算数に共通して資料やデータを活用し、回答する設問の正答率が低い傾向にあります。国語、算数を中心に、資料及びデータ活用についての問題形式に慣れていくことで正答率が改善され、思考力・判断力・表現力もともに育まれていくと分析しています。

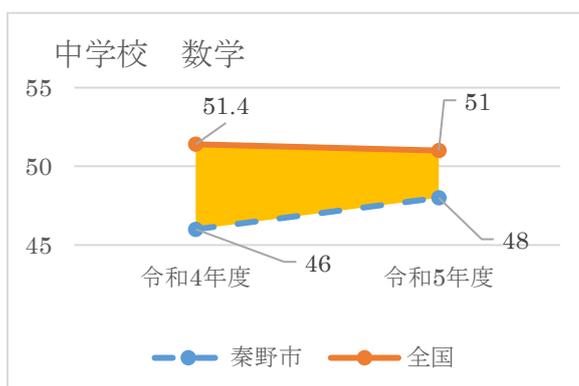
2 中学校の調査結果の概要 (単位：%)

(1) 各教科の正答率等について

中学校	国語	
	令和4年	令和5年
秦野市	67	66
神奈川県	69	70
全国	69	69.8

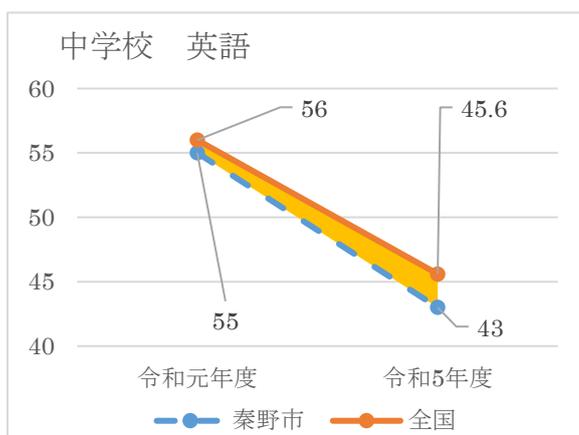


中学校	数学	
	令和4年	令和5年
秦野市	46	48
神奈川県	53	52
全国	51.4	51



中学校	英語	
	令和元年	令和5年
秦野市	55	43
神奈川県	59	50
全国	56.0	45.6

※令和元年度から英語を追加。
英語は3年に1度程度の実施。



※県及び市の平均正答率は、国から小数第1位を四捨五入した整数値で提供されています。

(3) 結果の分析について

ア 国語、数学、英語に共通した課題として、根拠を明確にして考えを記述したり、筋道を立てて説明したりする記述式の設問の無回答率が高い傾向にあります。小学校の課題と同様に、資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にして考えを記述する活動を重点的に行うことで、改善していくと見えています。

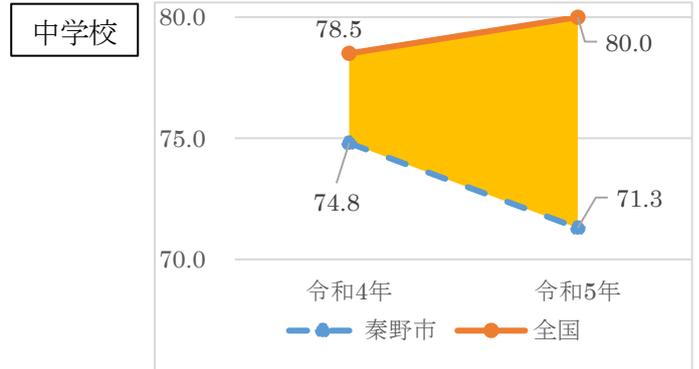
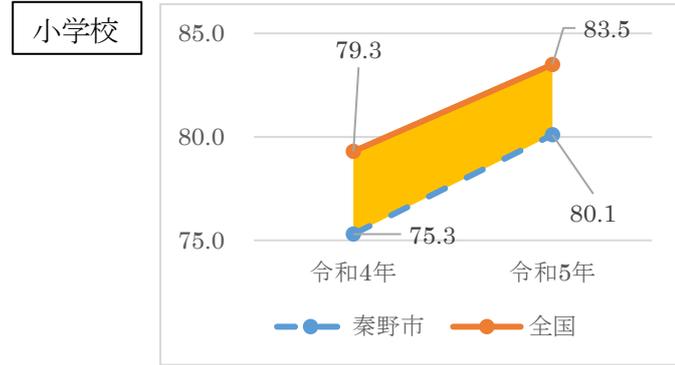
イ 数学については、知識・技能の正答率が高い傾向にあります。また、全国平均を上回っている設問もあり、日々の取組の成果が現れています。

ウ 英語については、読むことの領域について、正答率が高い傾向にあります。特に、文章の中から必要な情報を読み取ることができるとことや文と文との関係を正確に読み取ることが全国平均を上回っており、日々の取組の成果が現れています。

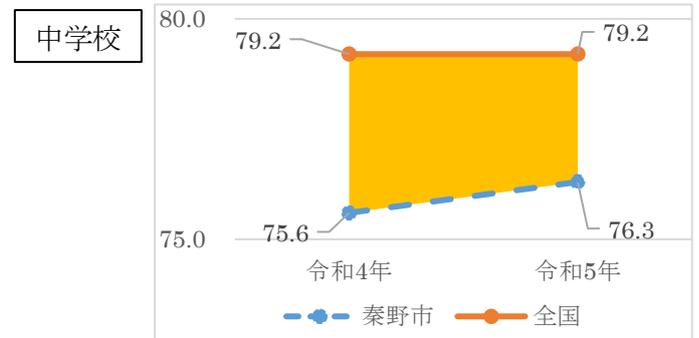
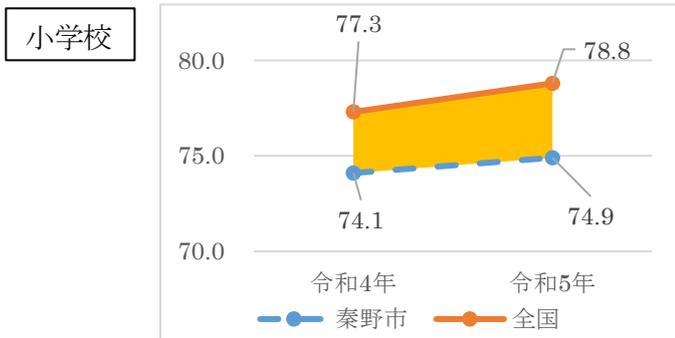
3 質問紙調査結果の概要（単位：％）

(1) 非認知能力に関すること

ア 自分には、よいところがあると思いますか



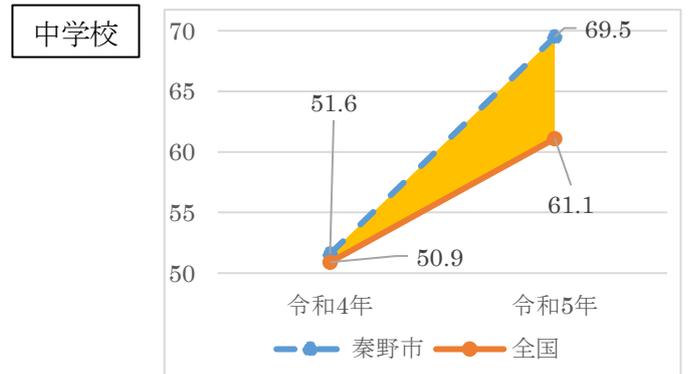
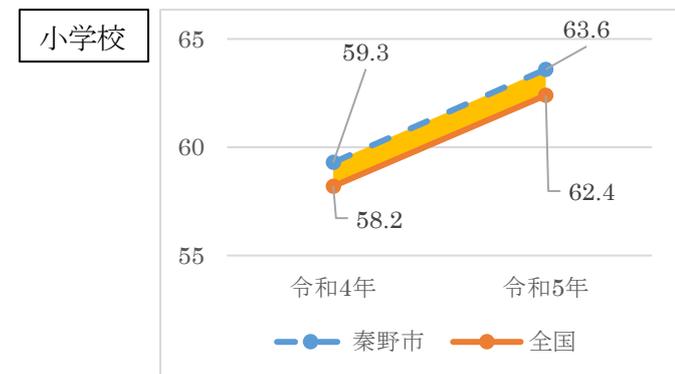
イ 5年生（中学は2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



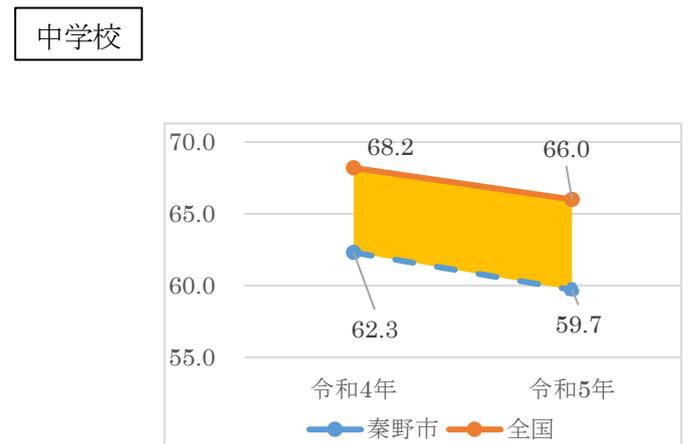
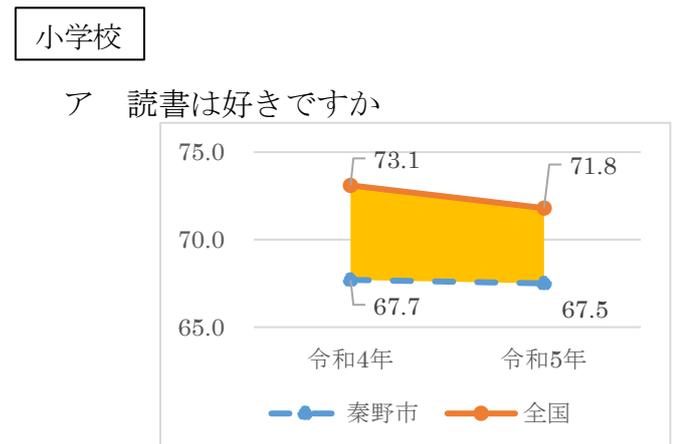
(2) ICT機器の活用に関すること

ア 5年生（中学は2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

※週3回以上活用していると回答した割合



(3) 読書に関すること



ア 読書は好きですか

(4) 結果の分析について

ア 小学校では、学力の基盤として着目され非認知能力の指標ともなる「自分には、よいところがある」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ことについて」の数値が向上しており、学びの基盤プロジェクトによる授業改善等や教育活動全体での工夫の成果と見ています。

イ ICT機器の活用については、小中学校とも全国平均を大きく上回っており、授業での有効活用の結果が見られます。引き続き、ICT機器を活用し「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた授業改善を推進します。

ウ 読書に親しむ項目では、小学校では全国との差が縮まっており、園小中での読書活動「よむよむDAY」の取組等を継続していくことで改善されていくと考えています。

4 教育水準の改善向上に向けた市全体の方向性

- (1) 学習指導要領に示される資質・能力の育成に向けて、学びの基盤プロジェクト等の非認知能力に着目した授業改善等や働き方改革を含め教育活動の全体での工夫を更に推し進める。

【関連施策】

○学びの基盤プロジェクト ○スマートスクール研究事業 ○教科担任制の推進

- (2) プログラミングの設問をはじめとして、学んだ知識を実生活で活用するための力を求める設問が多くなってきていることから、学習指導要領が目指す学力観に沿った授業改善と児童生徒が意欲的に学習に取り組む力を発揮できるよう支援体制を強化していく。

【関連施策】

○学びのステップアップ講座 ○学力向上推進研究委託 ○教育DX推進事業

- (3) 本市の課題の解決に向けて、資料から必要な情報を読み取り自分の考えを記述するような取組をはじめとした、具体的な授業改善を各校と協働して推進する。

【関連施策】

○学びのステップアップ研究推進委託 ○かながわ学びづくり推進事業
○NIE教育（新聞を活用した教育）実践研究

- (4) ICT機器の効果的な活用により家庭学習も含めた「個別最適な学び」と「協働的な学び」への授業改善を更に推し進めるとともに、読書活動の推進も含め園小中一貫した取り組みを推進する。

【関連施策】

○ICTマイスタープロジェクト ○読書活動の推進に係る実践研究
○寺子屋学習支援事業